

県内経済は、生産活動の増勢が一服、雇用情勢は悪化傾向、個人消費、公共工事などは減少傾向にあり、弱含みの停滞局面にある。

1. 平成20年3月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額は、2ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、中小型乗用車は好調だったものの大型乗用車は依然低迷し、軽自動車も減少に転じたことから全体では3ヵ月ぶりに前年を下回った。生産活動は、外需に支えられた鉄鋼、輸送用機械などの業種は堅調であるが、増勢基調に一服感がみられる。投資動向をみると、公共工事請負金額は、県の発注減は続けているが国および市町村からの発注増により2ヵ月連続で前年を上回った。民間の建築着工は、棟数、床面積、工事予定額がいずれも2ヵ月ぶりに前年を上回った。新設住宅着工戸数は、持家で増加したものの貸家、分譲で減少し全体では4ヵ月ぶりに前年を下回った。雇用情勢は、新規求人数が減少傾向にある中、新規求人倍率は小幅上昇したが有効求人倍率は再び低下し平成17年10月以来となる0.7倍台の低水準に止まっている。

県内経済は、生産活動の増勢基調に一服感がみられ、公共工事の減少傾向、雇用情勢の悪化傾向とともに、原油を始めとする原材料価格高騰の影響が様々な業態に及び、弱含みの停滞局面にあるとみられる。

〔消費動向〕 減少：大型小売店販売額（全店舗）は、バッグなどの身の回り品などが低調だったものの婦人・紳士の春物衣料品などに動きがみられ、また飲食料品が引き続き好調だったことから2ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、中小型乗用車は好調だったものの大型乗用車および軽乗用車が低調に推移したことから全体では前年を下回った。消費者物価指数は、前月比で2ヵ月連続、前年比では7ヵ月連続してともに上昇した。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、薄型テレビ、エアコンは堅調、DVDレコーダー、デジタルカメラは動きがみえ始めたが、パソコン、携帯電話、洗濯機などは低調で全体では前年をやや下回る水準で推移した。ホームセンターは、家庭用品などが堅調で全体では前年をやや上回る水準で推移した。旅行取扱額は、国内、海外の個人・団体旅行がともに伸び悩み全体では前年を下回った。

〔投資動向〕 減少：公共工事請負金額は、県からの発注減少の中、国および市町村からの発注増加により2ヵ月連続で前年を上回った。2月の建設着工（民間・非居住用）における棟数、床面積および工事予定額はいずれも2ヵ月ぶりに前年を上回った。新設住宅着工戸数は、持家で増加したものの貸家、分譲がともに減少に転じたことから全体では4ヵ月ぶりに前年を下回った。

〔生産活動〕 増勢が一服：2月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、前月比3.0%低下の106.5となり3ヵ月ぶりの低下となった。原指数は、104.8で前年比0.8%の上昇となった。大口電力販売量は、前年比4.6%増加し増加基調で推移した。

〔企業倒産〕 悪化：倒産件数は、6ヵ月連続で2桁台となり、倒産金額も前月比および前年比とともに大幅に増加するなど依然悪化増勢基調となった。

〔金融動向〕 低調：3月末の預金残高は13ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は15ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向〕 悪化傾向：新規求人数は5ヵ月連続で前年を下回った。新規求人倍率は微増となり2ヵ月連続で前月を上回ったものの、有効求人倍率は再び前月を下回り0.7倍台の低水準にある。

県内経済動向の概要

	項目	平成20年 1 月		2 月		3 月	
		前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比	前年同月比	前 月 比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	↗	↗	-	-
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↘	↘
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	↗	↗	-	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預 金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸 出 金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化 ↘
 注1：季節調整値。 注2：季節調整値。

2. 県内経済動向

— 消費動向 —

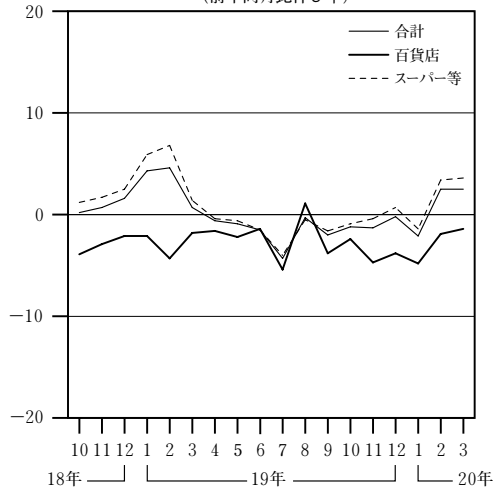
大型小売店 3月の県内大型小売店の販売額は、バッグ・アクセサリなどの身の回り品などが低調に推移したものの、婦人、紳士服の春物衣料品や寝具類などに動きがみられ、また飲食料品などが引き続き好調だったことから全店舗ベースで199億22百万円（前年同月比2.5%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。また、既存店ベースでも、同1.0%増となり2ヵ月連続で前年を上回った。

業態別に内訳をみると百貨店は、主力の婦人服、紳士服などの衣料品、飲食料品は好調だったものの、身の回り品、家庭用品などが低調に推移し合計で40億6百万円（同1.4%減）と7ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、衣料品、身の回り品などが引き続き低調だったものの、主力の飲食料品が好調に推移し、合計で159億16百万円（同3.6%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。

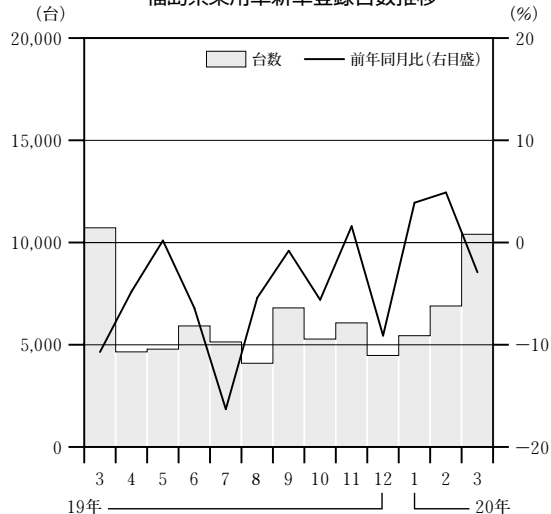
乗用車販売 3月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、合計で10,456台（前年同月比2.9%減）と3ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別でみると、大型乗用車は1,320台（同16.9%減）と15ヵ月連続で前年を下回った。一方、主力の中小型乗用車は5,476台（同7.9%増）と3ヵ月連続で前年を上回った。軽乗用車は3,660台（同10.9%減）と2桁台の大幅な減少になり3ヵ月ぶりで前年を下回った。

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月比伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

3月の乗用車中古車登録台数（軽自動車は名義変更を含む）は、合計で17,575台（前年同月比4.8%減）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別にみると、大型乗用車は4,891台（同6.0%減）と2ヵ月ぶり、中小型乗用車は7,053台（同7.1%減）と10ヵ月連続、軽乗用車は5,631台（同0.7%減）と6ヵ月ぶりに、ともに前年を下回った。

消費者物価指数 3月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成17年=100）でみると、101.5（前月比+0.5%）と2ヵ月連続で前月を上回った。

前年同月比では+1.9%となり7ヵ月連続で上昇し、上げ幅も2月の+1.7%から更に拡大し上昇した。

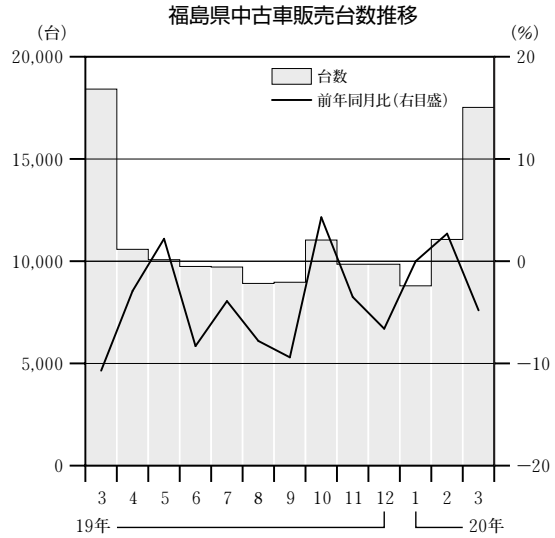
費目別の指数動向をみると、「食料」で102.9（前月比+0.6%）と4ヵ月連続、「教養娯楽」で96.8（同+0.7%）と2ヵ月連続し、ともに上昇した。また、「光熱・水道」で108.5（同+0.4%）、「被服及び履物」で100.0（同+6.3%）、「保健医療」で98.6（同+0.1%）、「交通通信」で103.1（同+0.3%）と、いずれも2ヵ月ぶりの上昇となった。一方、「家具・家事用品」は97.9（同△0.3%）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。「住居」は99.9、「教育」は101.3となり前月比で変らなかった。

家電量販店 3月の売上は、薄型テレビ、エアコンは堅調、DVDレコーダー、デジタルカメラは動きがみえ始めたが、パソコン、携帯電話、洗濯機などは引き続き低調で全体では前年をやや下回る水準で推移した。

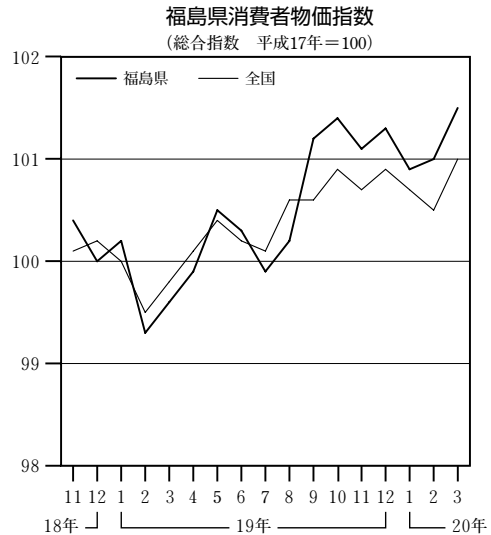
ホームセンター 3月の売上は、家庭用品、DIY商品などが堅調で商品単価の引き上げなどもあり全体では前年を上回る水準で推移した。

旅行 3月の旅行取扱額実績は、国内個人・団体ならびに海外個人・団体のいずれもが前年を下回った。特に海外旅行は燃油特別付加運賃の上昇などから伸び悩みの傾向が強まった。

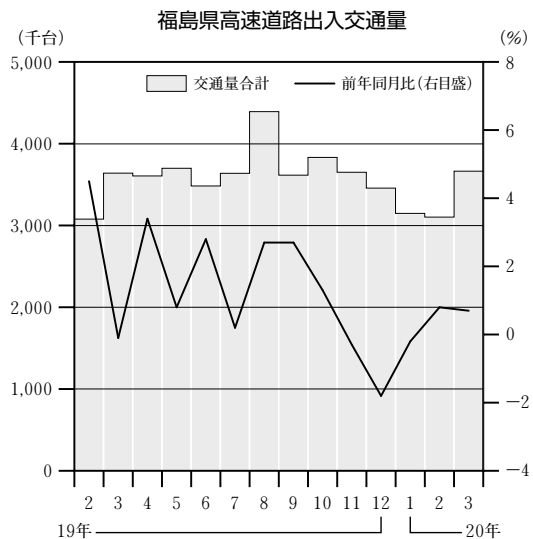
高速道路 3月の県内自動車道通過台数は3,677,063台（前年同月比0.7%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。路線別にみると、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,215,689台（同0.6%増）と3ヵ月連続、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は256,196台（同4.2%増）と37ヵ月連続、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は494,861台（同0.8%増）と6ヵ月ぶりに、ともに前年を上回った。常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料：(社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



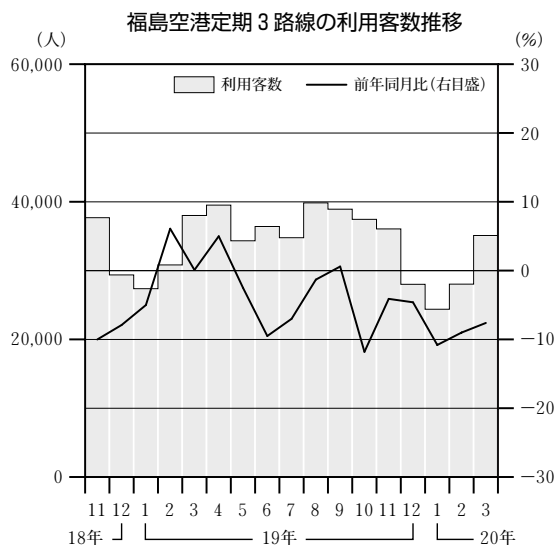
(資料：総務省統計局)



(資料：東日本高速道路(株)東北支社)

は710,317台（同0.6%減）と5ヵ月連続で前年を下回った。

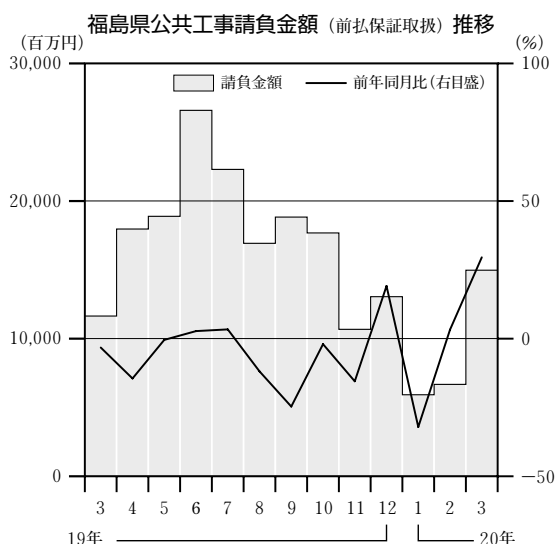
福島空港 3月の福島空港国内定期路線の利用状況は、35,258人（前年同月比7.6%減）と6ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、札幌便は9,648人（同8.2%減）と7ヵ月連続、大阪便は19,583人（同3.2%減）と3ヵ月連続で、ともに前年を下回った。沖縄便は6,027人（同2.0%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。一方、国際便の利用状況は5,238人（同1.9%減）と4ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると上海便は1,204人（同33.6%減）と2ヵ月連続で前年を下回った。ソウル便は4,034人（同14.4%増）と2ヵ月連続で前年を上回った。



(資料：福島県商工労働部空港交流課)

投資動向

公共工事 3月の公共工事前払保証取扱は、件数で224件（前年同月比4.2%増）、請負金額で149億74百万円（同28.2%増）、保証金額で54億67百万円（同22.9%増）となった。件数は、県の発注増により3ヵ月ぶりに前年を上回った。請負金額および保証金額は、国および市町村の発注増により、ともに2ヵ月連続で前年を上回った。

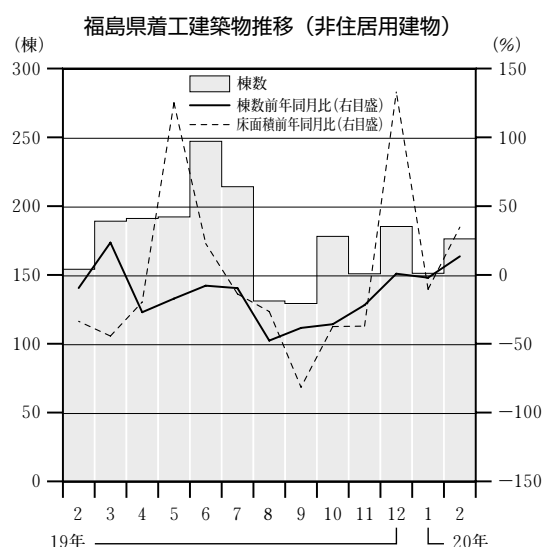


(資料：東日本建設業保証(株))

平成19年4月から平成20年3月までの19年度累計は、件数で前年度比349件減少し6,109件（前年度比5.4%減）、請負金額で同101億42百万円減少し1,907億66百万円（同5.0%減）、保証金額で同50億27百万円減少し736億29百万円（同6.4%減）となり、件数、請負金額、保証金額のいずれもが前年度比で減少となった。

主な発注者別の年度累計請負金額は、国で前年度比93億28百万円増加し343億40百万円（同37.3%増）となった。一方、厳しい財政事情から公共事業費の抑制が続く県で同127億88百万円減少し645億63百万円（同16.5%減）、市町村で同50億73百万円減少し756億21百万円（同6.3%減）となった。

設備投資 2月の建築着工（民間・非居住用）の棟数は177棟（前年同月比14.2%増）、床面積は75,829㎡（同35.4%増）、工事費予定額は78億83百万円（同28.2%増）となり、ともに2ヵ月ぶりに前年を上回った。



(資料：国土交通省)

3月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、762件（前年同月比21.2%減）と2ヵ月ぶりに前

年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は130件（同43.0%減）と3ヵ月ぶり、4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は632件（同14.5%減）と2ヵ月ぶりに、ともに前年を下回った。構造計算適合性判定の合格件数は前月より21件増加し44件となった。

建築物着工の先行指標である3月の建築物申請件数は、854件（同13.4%減）となり2ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は190件（同14.8%減）と2ヵ月連続、4号建物は664件（同13.0%減）と2ヵ月ぶりに、ともに前年を下回った。構造計算適合性判定の申請件数は前月より11件増加し27件となった。

住宅建設 3月の県内新設住宅着工戸数は、882戸（前年同月比5.1%減）と4ヵ月ぶりに前年を下回った。利用関係別にみると、持家は543戸（同15.8%増）と3ヵ月ぶりに前年を上回ったものの、貸家は225戸（同14.1%減）と5ヵ月ぶり、分譲は113戸（同42.9%減）と3ヵ月ぶりに、ともに前年を下回った。

— 生産活動 —

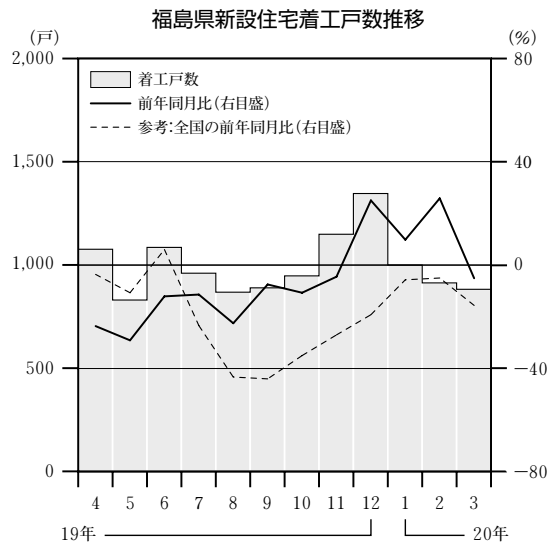
鉱工業生産指数 2月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると前月比3.0%低下の106.5と3ヵ月ぶりに低下した。原指数は、前年同月比0.8%上昇し104.8となった。

上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）は、情報通信機械工業で96.0（前月比15.2%増）、精密機械工業で101.5（同8.0%増）、食料品・たばこ工業で83.9（同7.3%増）となり9業種が上昇した。

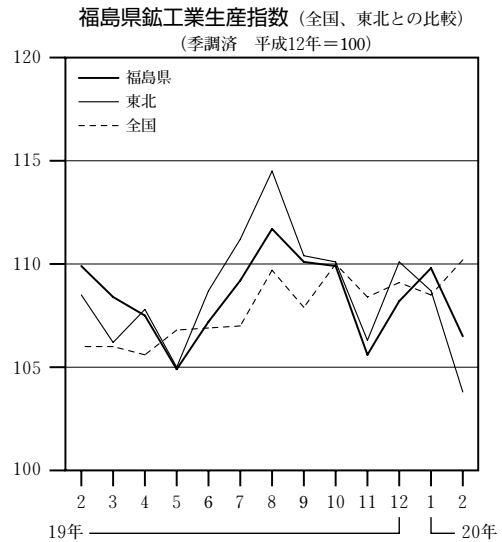
一方、一般機械工業で117.3（同15.6%減）、電気機械工業で299.8（同7.8%減）、パルプ・紙・紙加工品工業で114.3（同4.8%減）となり10業種が低下した。

化学 3月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内外の好調な受注を背景に前年を上回る高水準で推移した。金属代替プラスチックや炭素繊維についても、世界的な需要が堅調で好調な生産が継続した。

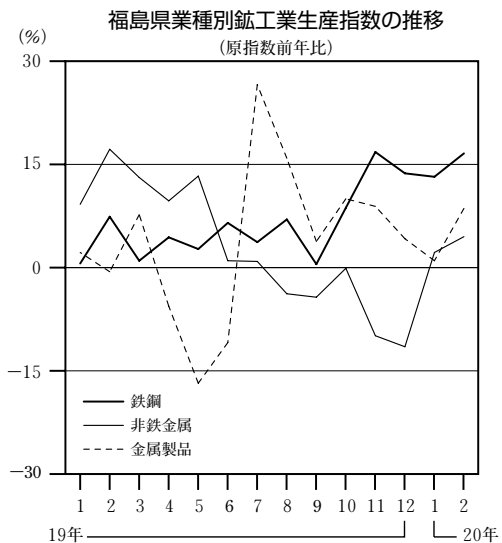
3月の酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）、バリウム化合物（電子部品原料）、電子材料



(資料：国土交通省)



※全国値は「平成17年=100」とする確報値を掲載
(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

の生産などは期末在庫調整などから前年をやや下回る水準で推移した。

鉄鋼・金属 3月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材で前年をやや上回る水準となった。半導体向け電子材は前年並みの水準で推移した。建機用は、海外(中国、オーストラリア、中央アジア等)から鉱物資源用などの受注は堅調であるが前年をやや下回る生産となった。車両用は、新幹線およびJR中央線・京浜東北線の更新需要および台湾、ドバイなど海外からの受注に支えられ堅調に推移した。陸上プラントおよび船舶用バルブ部品は、原子力関連などの受注もあり前年を上回る高水準の生産が継続した。

輸送用機械 3月の自動車用鋳造品の生産は、国内は一服状態、海外は北米市場で減少基調にあるものの、東南アジアや中南米向けなどの輸出が引き続き好調で前年を上回る高水準で推移した。

電気機械 3月の変圧器、電熱炉、変圧器、自動車モーターなどの生産は、堅調な受注に支えられ前年を上回る水準で推移した。

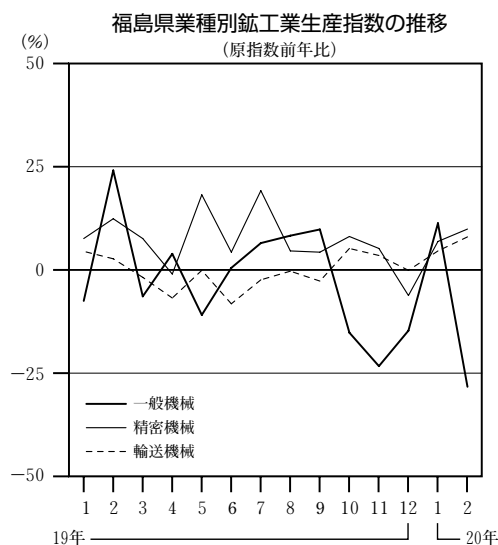
情報通信機械 3月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、アジア・中近東(インド、トルコ等)などからの引き続き好調な受注を背景に、引き続き前年を大幅に上回った。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、ほぼ前年並みの水準で推移した。

電子部品・デバイス 3月のLSI(大規模集積回路)の生産は、産業機器、パソコン、携帯電話向けはやや低調だったが、主力のAV・ゲーム機、家電、車載品、通信向けなどが堅調で、全体でも前年をやや上回る水準で推移した。

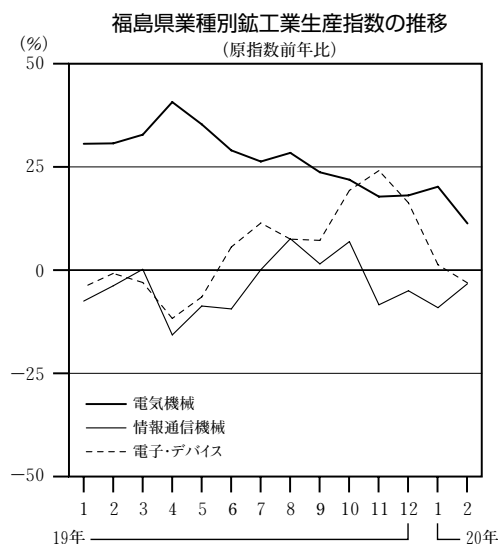
精密機械 3月の医療用内視鏡の生産は、期末在庫要因と製品の一巡感などもあり、前年をやや下回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、海外市場環境が厳しく前年をやや下回る水準で推移した。

紙・紙加工品 3月の段ボールの生産は、堅調な受注に支えられ、前年をやや上回る水準で推移した。ノーカーボン紙、インクジェット紙の生産は、前年をやや下回る水準で推移した。感熱紙については、前年をやや上回る水準で推移した。

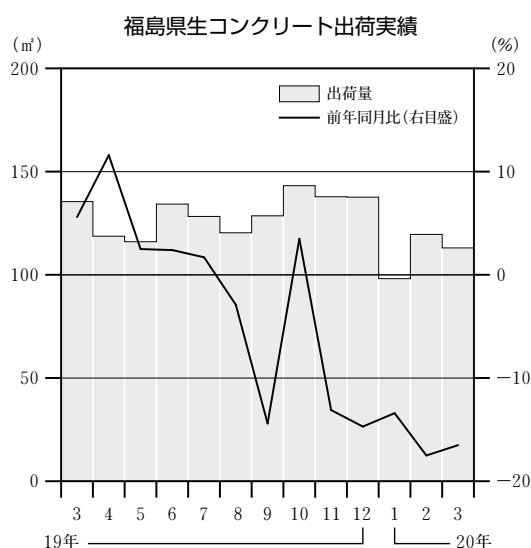
窯業・土石 3月の生コンクリート出荷量は、民需、官公需がともに低迷し113,550m³(前年同月比16.5%減)と5ヵ月連続で前年を下回った。



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

増加地区は、官公需では、引き続き東北中央高速道路工事などが実施されている県北地区、民需では倉庫ならびにマンション建設などによる県中地区となった。

木材・木製品 1月の素材（丸太など）の入荷量は、26,290^m（前年同月比0.3%増）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。販売量は25,494^m（同2.5%減）と2ヵ月連続で前年を下回った。一方、製材品（合板など）の入荷量は、2,116^m（同23.9%減）、販売量は1,724^m（同26.5%減）となり、ともに8ヵ月連続で前年を下回った。

1月の木造戸数は、新設住宅着工戸数1,000戸のうち807戸（木造率80.7%）となった。

清酒 3月の清酒移出数量は、1,472kl（前年同月比7.5%減）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。

タイプ別には、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）で431kl（同1.1%減）、一般酒（特定名称酒以外の酒）で1,040kl（同9.9%減）となり、ともに2ヵ月ぶりに前年を下回った。

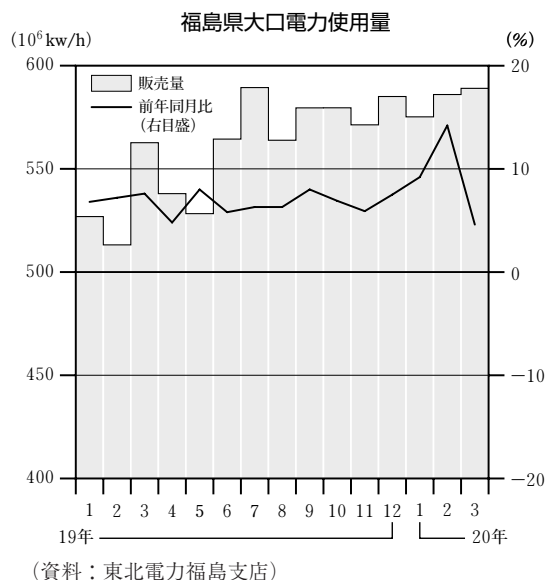
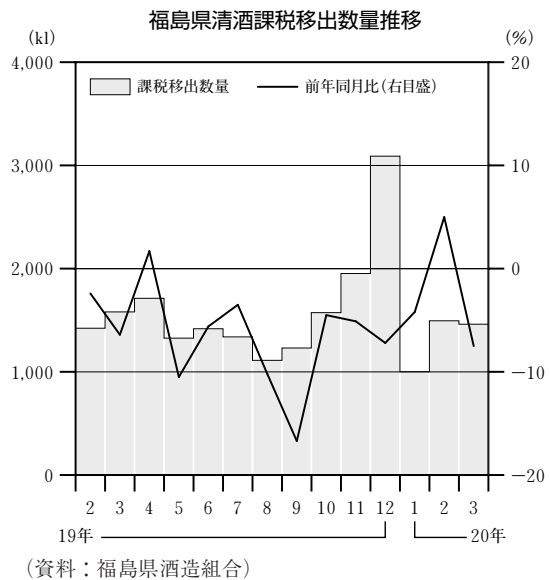
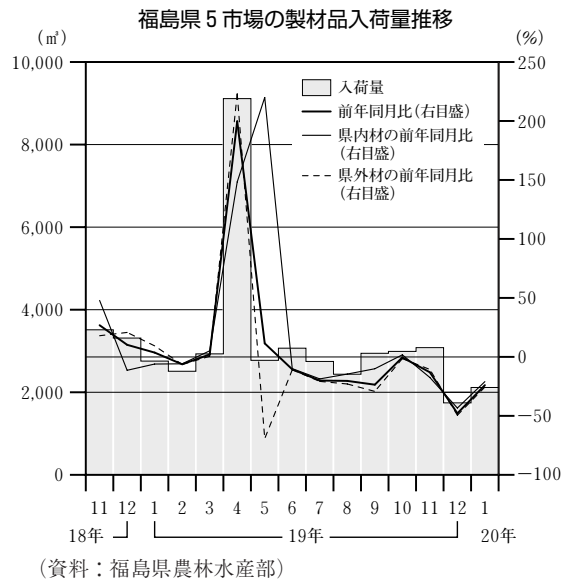
合成繊維物 3月のナイロンの生産はダウンジャケット（表地）向けを中心に前年を下回る水準で推移した。ポリエステルについても、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に前年を下回る水準で推移した。

ニット 3月のニットは、展示会用サンプル生産および高級品を中心に横這いで推移した。

大口電力 3月の大口電力販売量は、589百万kw/h（前年同月比4.6%増）となった。主な販売先を業種別にみると、「電気機械」で126百万kw/h（前年同月比3.7%増）、「非鉄金属」で111百万kw/h（同21.0%増）、「化学」で58百万kw/h（同2.8%増）、「輸送用機械」で61百万kw/h（同0.5%増）、「一般機械」で32百万kw/h（同0.9%減）、「紙・パルプ」で31百万kw/h（同5.7%減）となった。

企業倒産

企業倒産 3月の企業倒産（負債総額10百万円以上）における倒産件数は、15件（前年同月比11.8%減）と6ヵ月連続で2桁台となる高水準で推移した。負債金額は、製造業で大型倒産が発生し121億23百万円（同34.3%増）と4ヵ月連続で前年を上回った。平成20年第1四半期（1～3月）の倒産件数は前年同期比で5件増加し43件（前年



同期比13.2%増)、負債金額は同比116億24百万円増加し261億43百万円(同比80.1%増)と依然悪化増勢傾向になった。倒産主因の内訳は、受注・販売不振で14件、系列・下請再編成で1件となった。業種の内訳は、建設業が3ヵ月連続で最多業種となる5件、製造業で3件、小売業、運輸・通信業、サービス業でともに2件、不動産業で1件となった。地区別は、県南で7件、県北で6件、浜通りで2件となった。

金融動向

資金需要 県内金融機関(全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分)の3月末の預金残高は、6兆1,590億円(前年同月比0.9%増)と13ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆8,238億円(同1.1%減)と15ヵ月連続で前年を下回った。

保証協会 3月の保証承諾は、件数で1,412件(前年同月比8.9%減)、保証金額で131億47百万円(同3.9%減)となり、ともに2ヵ月連続で前年を下回った。代位弁済は、件数で184件(同109.1%増)と前月に引き続き大幅な増加となり2ヵ月連続で前年を上回った。金額も13億88百万円(同80.4%増)と大幅に増加し、3ヵ月ぶりで前年を大きく上回った。

雇用動向

雇用動向 3月の新規求人数は、11,696人(前年同月比15.8%減)と5ヵ月連続して前年を下回った。一方、新規求職申込件数は、10,741件(同0.9%増)と3ヵ月連続して前年を上回った。

新規求人倍率(季節調整済、パート含)は、1.08倍(前月比0.01_割上昇)と2ヵ月連続で前月を上回った。原数値は1.09倍(前年同月比0.21_割低下)と5ヵ月連続して前年を下回った。

有効求人倍率(季節調整済、パート含)は、0.74倍(前月比0.05_割低下)と2ヵ月ぶりに前月を下回った。原数値は0.78倍(前年同月比0.17_割低下)と5ヵ月連続して前年を下回った。

県内の雇用情勢は、新規求人数の減少傾向のなか有効求人倍率が0.7倍の低水準に止まり厳しい状況にある。

